

## 在宅医療が、もっと“暮らし”の中にある未来へ。

——向原クリニック 小島院長 × 福田医師 インタビュー

2009年の開院から15年、兵庫県神戸市西区・垂水区・明石市を拠点に、地域の在宅医療を支え続ける「向原クリニック」。がん末期、認知症、神経難病などの疾患をもちながらご自宅で療養される患者さんの“暮らし”と“看取り”を見届けてきた。今回は、小島院長と福田医師に、クリニックの理念とチームのあり方を聞いた。

### 向原クリニックの特徴

✓ 医師5名体制で多角的な診療  
(がん末期・認知症・神経難病など幅広い疾患に対応)

✓ 訪問看護師と連携した24時間  
365日対応体制(夜間・休日も院内医師が往診)

✓ ケアマネジャー・訪問看護師  
との密な連携(地域の多職種チームで暮らし全体を支援)

【対応エリア】

神戸市西区・垂水区・明石市

【開院】2009年

(訪問診療専門15年)

### 日常の中にある医療

長く、深く寄り添う医療

——開院からもうすぐ15年。どんな患者さんを支えてこられたのでしょうか？

院長 当院の患者さんに多いのは、がん末期、認知症、神経難病などの疾患をもちながら、ご自宅で療養されている方々です。僕は特に認知症の方の暮らしを継続していくことに、より重要性を感じています。

——具体的には、どのように感じられているのでしょうか？

院長 認知症は、家庭不和の火種になりやすいんです。

暴言、暴力行為で関係が壊れかける。でも、お薬を良い加減で使えば、お家で過ごせるようになります。

ご家族が「看取りまで自宅で過ごすことができ良かった」とお声をいただいた時は、本当に嬉しいです。どれだけ治すかよりも、実際の暮らしでは、そんな家族の関係性の部分が切実で、重要になることが多々あります。

福田医師 僕は特に終末期医療に力を入れています。がん末期の患者さんは、病気の経過がある程度予測がつくことから、最期までご本人の望みに耳を傾け、相談して、できることを選択肢を広げたサポートを行うことを大切にしています。

ご本人の「これがやりたい」「これはやりたくない」に、医療者として応えながらやっていくことが在宅医療では可能です。今後も力を入れていきたいです。

院長 正解を一つに絞らないという姿勢が、在宅の自由さでもあり、責任でもあると思います。

### 多様な視点がつくる最適解—医師5名チーム医療

院長 物事を考える際に、理屈だけでも、感情だけでも駄目だと思っています。

その両方がないと在宅医療は成り立たない。

そう考えると、うちの医師5名体制のチームは、多角的な視点で患者さんを捉えることができ、お互いを補い合えるのが強みだと思っています。

### 訪問看護師と連携した24時間365日対応体制

——24時間365日体制、どのように対応されていますか？

院長 まず訪問看護師さんに患者さんから連絡が入ります。電話で解決できることもあれば、訪問看護師さんが先に行って、処置をしてくださったりします。

やはり、患者さんの日常をよくご存知で信頼がある訪問看護師さんを中心に、夜間対応していく方が早く、機動力があり、何より患者さんが安心されるんです。患者さんにとってのメリットが大きいと考えています。





訪問看護師さんが「医師の往診が必要」と判断した場合、当院の看護師を中心とした宅直スタッフに連絡が入ります。

夜間の往診は、従来外部医師に依頼する形でしたが、現在は当院の医師が担当しています。患者さんやご家族の、いつもの医師が来てくれる安心感や一貫性を大事にしたいと思っています。

## ケアマネジャーとの密な連携

「もう一人のリーダー」として

—地域の多職種との連携、特に福祉とはどのようにされていますか？

院長 ケアマネさんはもう一人のリーダーだと思っています。患者さんのご自宅に、“手すり一つ付ける”、“介護の合間にショートステイ一つ提案する”ことで生活が変わりますから。

福田医師 ケアマネさんとはよくお話しします。こちらが伝える前に、もう先に動いていただいていることも多くて、本当にありがたいです。患者さんのご自宅で家族だと思って丁寧に説明したら、実はケアマネさんだったということもあります(笑)。

院長 それでいいんです。関わる方に、情報が丁寧に共有される

ほど、段取りが早くなります。“相談しやすい医者”でいたいですね。

## 人柄と経験が支えるチーム力

—向原クリニックチーム全体の雰囲気が和やかですね。

院長 スタッフは人柄が滲むような誠実な人が多いです。それに、看護師も事務員も、在宅で培った経験が深く、医者への僕達が教わることも多いです。

福田医師 医師同士も得意分野が違うので、先ほどもお話していた通り補い合えます。それぞれ頼れる存在がいます。苦手な分野があれば「お願い」と言える関係性です。患者さんにとっても、その方が最適解に辿りつきやすいです。

## 在宅医療専門クリニックだからこそできること

—病院発の往診も増えていますが、違いはどこにありますか？

院長 在宅医療を専門で見てきた「経験の厚み」でしょうか。

暮らしを見てきたからこそ、病状と生活の変化を多角的に予測してお話したり、治療においても先手を打つことができている。

また、外来と往診を並行する体制では限界があり、難しい部分でも、うちは機動的に動けるメリットがあります。

それが役割であり、どちらが良い悪いでなく、役割の差別化だと思っています。

福田医師 そして、医療における「当たり前」に流されず、個別のニーズを暮らしから考えます。禁止する前に、ご本人の望みと病態から、現状を一緒に整理して話し合う。それが在宅医療の大切な視点です。

院長 当院の理念には“三方よし”があります。その、患者さんの“よし”を太くするために、僕達も柔軟性をもちながら力強く支えられる存在であろうと思っています。

もう一段先の“よし”へと考えています。



# INTERVIEW



## 正解がない医療を、暮らしの中で

——なぜ在宅医療に携わられたのですか？

**院長** 一般的に、治療を中心とした医療では正解が一つの領域が多いように思います。それなら「自分でなくてもいいかな」と思うことがありました。

精神科の実習で訪問看護師さんと患者さんのお家へ行ったとき、その方の暮らしを見て、初めて患者さんのことを知れた気がしたんです。あの感覚が原点です。

**福田医師** 僕は「肩が痛い」で受診した患者さんから初期の胃がんが見つかった時に、がんの治療が優先されて進んでいく過程を見ながら「命は救えたけど、肩は？」と率直に思ったことがありました。困りごとの解決を最後まで見届けたい。それが在宅の目線です。

## 「やりたいことを、家で実現する」

——これから、どんな在宅医療を届けていきたいですか？

**院長** 在宅医療は“手段”です。目的は、患者さんがやりたいことを実現することです。病気だけでなく、環境や制度の障害も越えていく。

そのために僕達があります。

入院中はパンが食べられなかった人が、家でパンを食べて「よかったね」と笑えるような、そんな当たり前の生活を続けていける支援がしたいです。

**院長** 向原前院長の名刺の裏には、“生き方（生活の生）”と“逝き方（最期の生）”という言葉が書いてあります。

僕達は、その両方に向き合っていきます。患者さんに合う在宅医療を“一緒につくること”を心がけています。

**福田医師** 患者さんの「これはやりたい」「これはやりたくない」という声に、できるだけ応える。

断らない在宅医療を目指しながら、できないことは線を引く。でも、その線は誠実に引いていきたいです。

## 取材後記 暮らしにある医療

「在宅医療は、患者さんのやりたいことを実現するための手段」という言葉が小島院長と福田医師の語りの根底にあった。

向原クリニックでは、病気を治すことだけを最終目的とせず、患者一人ひとりの生活や希望に即した医療の提供を重ねている。チームで、リスペクトし合いながら各々の役割を果たすという姿勢が印象的だった。

在宅医療は、疾患だけでなく家族関係や生活環境など医療以外の要素にも大きく左右される。向原クリニックの医師たちはそれらを切り離さずに捉え、暮らし全体を支える視点で関わっていた。

夜間対応を含めた連携体制の工夫や、ケアマネジャーとの密な情報共有からも、地域の中で医療をどう機能させるかという課題に真正面から取り組む姿勢がうかがえた。

両医師の考え方は、人間としての尊厳を失うことなく生きるために、これからの地域医療に欠かせない視点だ。暮らしの中で医療はどう在るか。訪問診療に特化した専門クリニックの存在は、その問いへの一つの確かな答えとなるだろう。

取材日：2026年1月10日

取材・文 / Akiko Hagino





## 医療機関・事業所の皆さまへ 連携について

### ■ 新規患者さまのご相談

1. お電話またはFAXでご相談ください
2. 患者情報をお伺いした後、患家に訪問し  
事前説明をした上で、初回訪問日を調整
3. 初回訪問後、診療方針等をご報告します

### ■ 対応可能な医療処置(一例)

- ・疼痛管理(医療麻薬含む)
- ・中心静脈栄養、その他輸液管理
- ・胃瘻など各種カテーテル管理
- ・在宅酸素療法
- ・褥瘡処置
- ・人工呼吸器、気管切開管理（4月より再開）

※詳細はお問い合わせください

### ■ 緊急時の連絡体制

- ・365日24時間体制
- ・夜間・休日 オンコール対応  
(当院宅直スタッフ→当院医師)  
当院医師による往診

### ■ 訪問エリア

- ・神戸市西区
- ・神戸市垂水区
- ・明石市

※一部対象外のエリアがあります。  
詳細はお気軽にご相談ください。

在宅療養支援診療所

## 向原クリニック

MUKAIHARA CLINIC

### 所在地

〒651-2112  
兵庫県神戸市西区大津和1-7-8

### 連絡先（平日 8:30-17:30）

TEL (078)975-8760  
FAX (078)975-8770  
MAIL mukaihara.mhc@gmail.com  
Instagram @mukaihara\_clinic



## 取材

フリーインタビュアー

## Akiko Hagino

医療・教育・創作・ケアの四つの領域で活動。  
「いのちのことば」をきく独自のインタビュー  
サイト「Memento Mori」を運営。  
<https://note.com/akikohagino>